世界史アップデート

アッシリア

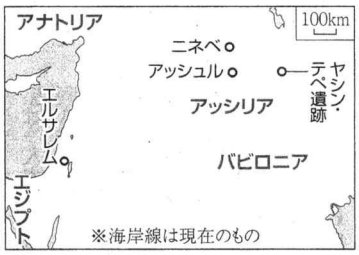
ここに注目！

・紀元前7世紀、オリエントを統一したアッシリアは「強権的な軍事大国」のイメージが強いが、長い歴史の一側面にすぎない。旧約聖書やヘロドトスの著書などの古典から形作られたイメージが、遺跡の近代的な調査が始まった後も根強く残った。
・帝国期の都ニネベ（現在のイラク北部）では、図書館に膨大な粘土板文書が収められ、知的資産が後世に残された。都市では祭礼が行われ、庭園もあり、高度な建築、水利技術が用いられた。
・日本の考古学者が東部辺境の拠点都市跡で発掘を続け、アッシリア中央の影響が強い未盗掘墓を発見する一方、帝国の支配が柔軟なものでもあった可能性を示唆する成果が上がっている。

文書集積 後世に残す

中島敦の小説『文字禍』は、アッシリア帝国が繁栄を誇ったアッシュルバニパル王（在位紀元前668～前631年頃）時代の、ニネベの図書館が舞台だ。老学者が王から文字の霊の研究を命じられ、楔形文字を粘土板に刻んだ万巻の書と向き合う。1942年に発表された。山田重郎・筑波大教授（アッシリア学）は「王の名や時代背景など、当時日本語で読めなかった多くの資料も読んで書いたに違いない」と評価する。作品を覆う空気は重苦しい。

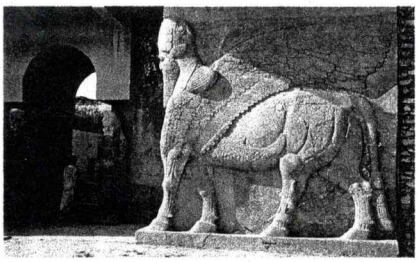
アッシリアは教科書などで、紀元前7世紀にオリエントを統一した、専制的な軍事大国だったと説明されている。



一般的理解には古典の影響が大きく反映している。旧約聖書は、アッシリアがエルサレムを包囲した戦いをユダヤ側の視点で伝え、ヘロドトスは、昔、強大さを誇った国としてアッシリアに言及する。19世紀に近代的な遺跡調査が始まり、そうした記述が、前7世紀の終わり頃に崩壊するまでの長い歴史の一側面にすぎないとわかったが、今も旧来の認識は根強い。

●

アッシリアは紀元前2025年頃、現在のイラク北部の都市アッシュルが都市国家として独立して始まる。前14世紀半ばには、複数の都市を支配する領域国家となり、エジプトやヒッタイトなど大国と肩を並べた。


アッシリアの都市だったニムルド遺跡の人頭有翼の牡牛（おうし）像。同遺跡は2015年、イスラム過激派組織「イスラム国」が破壊した（1990年頃撮影）

その後いったん衰退し、前10世紀頃から領土回復を進める。各地の征服地に行政州を置いたほか、属国とした土地もあった。前8世紀半ば、ティグラト・ピレセル3世が即位し、帝国期を迎えた。大規模遠征を繰り返して征服地を広げ、行政州を再編し、中央から長官を派遣して広域を支配した。征服地から多くの住民を強制移住させ、空いた土地に別の土地の民を連れて来て住まわせた。

山田教授は「それまでも征服地から中央に向けて強制移住は行われたが、それでは空いた土地が荒廃する。新しい形の強制移住は、住民が結束して反乱するのを防ぐ狙いに加え、帝国拡大の中で地方の核になる都市を作り、開発を重点的に行うことを可能にした」と解説する。

東はイラン高原、西はエジプトや地中海に及ぶ広域を版図に収めたアッシリアは「最古の帝国」と呼ばれる。「多様な民族が住む広大な領域を一つの行政システムで支配し、その外側に貢納する多数の属国も置いた。それまでの大国と異なり、一連の政治史と行政システム双方の詳細を文書によって証明できる最古の例だ」と山田教授は説く。

●

アッシリアは特に帝国期、王が強い権力で広域を支配し、それを可能にする発達した行政機構があった。だが、文化的にも見落とせない側面がある。

アッシリアの中心都市では、連れて来られた移住者も含め多様な民族が暮らし、様々な祭礼が行われた。庭園が整備され、必要な水は高度な土木技術を用いて数十キロに及ぶ導水施設で運ばれた。都市文明は現代にもつながる。

ニネベの図書館には、政治を行う上で重視された占いに関する文書を始め、呪術や儀礼などの宗教文書、医学、叙事詩、神話、歴史など様々な文書が各地から集められた。

山田教授は「物語的な歴史叙述が始まったのは、ヘロドトスの『歴史』からだと言われるが、先にアッシュルバニパルの王碑文で芽生えていた」と考えている。それまでの王碑文は遠征などの記録を事績ごとに記したが、アッシュルバニパルの碑文では約20年間に起きた様々な事柄を一つのストーリーにして記すなど「語りとしての歴史記述」とみなされる記述も含まれる。

アッシリアについて、山田教授は「楔形文字で多くの事柄を粘土板に記録する古代メソポタミア文明の最後の段階にあたり、メソポタミアの知的財産にあたる種々の文書の集積を残し、政治、行政、文化、建築など様々な面で足跡を後世に残した」と世界史的意義を強調している。（清岡央）

参考文献　山田重郎『アッシリア　人類最古の帝国』ちくま新書、同「アッシリア帝国」（『岩波講座世界歴史　2』岩波書店）、同「『世界最古の帝国』を滅ぼした四つの要因」（『帝国の崩壊上』山川出版社）、大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形禎亮『世界の歴史1』（中公文庫）